

第9回健康・医療戦略推進本部 議事概要

日 時：平成27年7月21日（火）9時15分～9時30分

場 所：首相官邸4階大会議室

出席者：健康・医療戦略推進本部長、副本部長及び本部長

- 冒頭、副本部長である甘利健康・医療戦略担当大臣から、以下のとおり発言があった。
 - ・ 今般、「健康・医療戦略」及び「医療分野研究開発推進計画」の策定から1年が経過したことに伴い、これらの全ての施策の実行状況をフォローアップするとともに、主要な施策に関するこれまでの実行状況と今後の取組方針を取りまとめることとしました。また、平成28年度の概算要求に向け、この取りまとめた今後の取組方針等を踏まえ、「平成28年度 医療分野の研究開発関連予算等の資源配分方針」も取りまとめることとしました。
- 次に、事務局より、必要な説明を行った上で、「健康・医療戦略の実行状況と今後の取組方針2015」、「医療分野研究開発推進計画の実行状況と今後の取組方針2015」及び「平成28年度 医療分野の研究開発関連予算等の資源配分方針」について、案のとおり本部決定した。
- 出席者からの発言は以下のとおり。
 - ・ 下村文部科学大臣より、健康長寿社会の形成のため、世界最先端の医療技術等を実現し、国民の健康長寿社会を実現していくことは大変重要であり、また、こうした取組により、新たな産業活動を創出し、経済成長を図っていくことも大切である。文部科学省としては、本日、取りまとめた「健康・医療戦略」に関するフォローアップの結果等を踏まえ、引き続き、iPS細胞研究等による世界最先端の医療の実現や、認知症やうつ病などの精神・神経疾患等の克服、橋渡し研究の実施体制の強化による革新的医療技術の実用化の加速などの取組を着実に推進していく。本年4月に設立した日本医療研究開発機構を含め、関係省庁とも引き続き、緊密に連携し、医療分野の研究開発の推進に向けて積極的に取り組んでいく旨の発言があった。
 - ・ 塩崎厚生労働大臣より、厚生労働省では、「健康・医療戦略」に基づき、健康長寿社会の実現に向けて、特に臨床現場という出口までを見据え、基礎段階から実用化までの切れ目のない支援により、革新的な医薬品・医療機器の創出を支援してきた。本日決定された「今後の取組方針」を踏まえ、引き続き、これらの取組を推進するとともに、ゲノム医療や医療分野のICT化を通じた医療の質の向上等に関して、実用化に向

けた課題を的確に分析し、効率的で質の高い医療の実現に取り組んでいく。また、海外における医療人材の育成を支援することなどを通じて、日本の優れた医療技術・サービスの国際展開を進めていく旨の発言があった。

- ・ 宮沢経済産業大臣より、経済産業省として、日本医療研究開発機構を通じ、医療機器、医薬品、再生医療などの迅速な実用化に向けて、関係省庁と一体となって取り組んでいる。具体的には、①手術支援ロボットや画像診断などの、革新的な医療機器の開発・事業化、②医療機器分野に参入しようとする中小企業に対する、研究開発や販路開拓などへの支援を推進している。また、バイオ医薬品や再生医療製品について、製造技術、評価手法の確立を通じた、実用化までの切れ目のない支援を実施している。さらに、「健康・医療戦略」に基づき、健康寿命の延伸を目指した公的保険外のサービス産業の活性化や、新興国などへの医療技術・サービスの国際展開にも取り組んでいる。来年度の施策についても、本日決定された「資源配分方針」に基づき、しっかりと充実させていく旨の発言があった。

○ 最後に、本部長である安倍内閣総理大臣から以下のとおり挨拶があった。

- ・ 「健康長寿社会の実現」は、安倍内閣の成長戦略の柱です。
- ・ 本日、一年前に閣議決定した「健康・医療戦略」等の実行状況をフォローアップするとともに、これらに盛り込まれた施策を強力かつ着実に推進するための新たな方針を取りまとめました。
- ・ この一年で、iPS細胞から作製した組織を患者の体内に移植する世界初の臨床研究、現地機関と共同したエボラ出血熱に対する新たなワクチンの開発等、最先端分野での具体的な成果が次々と生まれてきています。

我が国の医療技術・サービスを海外へと広げる取組も急速に拡大し、今や、10か国を超える国々において、我が国の医療拠点が整備されようとしています。
- ・ こうした流れを止めるわけにはいきません。本年4月に設立された日本医療研究開発機構を中心に、基礎から実用化まで切れ目のない研究支援を行うことにより、世界のイノベーションを牽引してまいります。
- ・ 各大臣におかれては、本日取りまとめられた方針に基づき、オールジャパンでの取組を更に加速していただくようお願いいたします。

以上